

## 9 外国語（英語）

### （１）第１学年

#### ① 分析と生徒の状況

##### ア 分析

１年生の学習状況について、定期考査や授業評価アンケートなどから、以下の特徴が見られた。

- ・ 授業評価アンケートでは、英語に対して興味・関心があるという生徒が９０％、ないという生徒が１０％である。多くの生徒が興味・関心をもって学習に取り組んでいる。
- ・ コミュニケーションに対する関心・意欲については、日常の授業やALTと話す場面において、多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。
- ・ 英検４級以上に合格している生徒もいる一方で、アルファベットの文字と音声の一致に苦しむ生徒もいる。学力の個人差がとても大きい。
- ・ 音声による学習に慣れてきている生徒が多く、書く学習の際にピリオドやコンマ、文頭の大文字など英語を書く時の約束を忘れてしまうことがある。

##### イ 学力の状況

１年生の外国語（英語）の学力について、以下の傾向が見られた。

- ・ 語彙や文法の知識・理解を高める必要がある。
- ・ 聞くことや読むことで理解したことを、話すことや書くことで表現する力へつなげる必要がある。

#### ② 本校の課題

##### ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 学習した英語表現や文法を自己表現に活用し、運用する力を付ける。
- ・ 授業で学習した内容を定着させるため、家庭学習に取り組ませる。

##### イ 指導面（教師の課題）

- ・ 授業の構成を練り、目標を明確にして言語の使用場面を意識させる授業を行う。
- ・ ペアやグループなど学習形態を工夫しながら学習した文法事項を定着させ、身近なことを表現させる活動を大切にする。生徒同士での学び合いの時間を取り、主体的に学習する姿勢を身に付ける。
- ・ 音読指導の方法を工夫、充実し、教科書をすらすらと大きな声ではっきりと音読できるようにする。
- ・ 話すことや書くことの力を伸ばすため、授業における話すことや書くことの活動の内容と量を工夫する。
- ・ 聞くことや読むことの力を伸ばすため、特に聞き取りや読み取りのポイントなどを指導する。
- ・ 聞く力、英語で即答する力を高めるため、リスニングでは２回繰り返すではなく、１回で聞き取る経験を重ねる。
- ・ 定期的なワークへの取組、ノート指導、ワークシート回収時の個別指導を一層充実させる。
- ・ スピーチ、音読テスト、QAテストなどのパフォーマンステストをすることで、学んだことを自分の表現として使える英語に変えていく。

#### ③ 授業改善案

##### ア 言語活動授業への取組

- ・ 個人やペア、グループ内で意味のある内容伝達の学習を通じて、言語活動に意味をもたせる。
- ・ 既習事項を使った表現活動やリプロダクションを通して、言語活動の復習をする。

##### イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 何ができれば目標を達成できたことになるのかを生徒に分かりやすく提示する。
- ・ 指示や説明を簡潔・明確にし、板書や掲示物を工夫する。
- ・ 特に英語が苦手な生徒には、個別に声を掛け、放課後学習教室の利用も促す。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 家庭で学習したことが次の授業で生かされるように、授業内容と家庭学習の内容をサイクル化する。

エ その他（ＩＣＴ機器の活用等を含む）

- ・ デジタル教科書やパワーポイント等を使って、教科書の重要なポイントの提示やドリル活動を工夫する。
- ・ 外国語への感心を高め、より理解しやすいように英語の曲や映像を取り入れる。
- ・ 実写版のビデオ教材を使って実際の英語の使用場面や状況を理解するとともに、会話の際の話し方を身に付けさせ、興味・関心を高める。



## (2) 第2学年

### ① 分析と生徒の状況

#### ア 分析

2年生の学習状況について、定期考査や学力向上を図るための調査、授業の様子などから、以下の特徴が見られた。

- ・ 授業評価アンケートでは、英語に対して興味・関心があるか、の設問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」合わせて70%、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」合わせて30%である。
- ・ コミュニケーションに対する関心・意欲については、日常の授業やALTと話す場面において、発話を増やすなど意欲的に取り組んでいる生徒が多い
- ・ 学力向上を図るための調査では、総合点で都平均よりも2.1ポイント低い。特に表現の能力は都の平均よりも4.4ポイント低い。日本語を単純に英文に書き換える問題は、授業で繰り返し指導しているので書ける生徒が多いが、与えられた情報を元にして目的に合うように作文するのは苦手とする生徒が多い。
- ・ 定期考査と学力向上を図るための調査から、長文の読解力は標準的な力があるが、語彙力と文法への習熟が不足しているため、作文や発表に自信をもって取り組めていない生徒が多いことが確認できた。

#### イ 学力の状況

2年生の外国語（英語）の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 単語の知識や文法の理解を高める必要がある。
- ・ 知識・理解の能力を高め、理解の能力である聞くことや読むことの力、表現の能力である話すことや書くことの力へつなげる必要がある。
- ・ 個人差が大きく、一斉授業の中では、文字と音声に一致や単語の音を聞き取って真似たり文法の説明を理解したりすることが困難な生徒が十数名いる状況である。

### ② 本校の課題

#### ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 学習した英語表現や文法を自己表現に活用し運用する力を付ける。
- ・ 授業で学習した内容を定着させるために、家庭学習に取り組ませる。

#### イ 指導面（教師の課題）

- ・ 授業の構成を練り、目標を明確にして言語の使用場面を意識させる授業を行う。
- ・ ペアやグループなど学習形態を工夫して、音声を重視しながら反復学習により文法事項を定着させ、身近なことを表現させる活動を大切にする。
- ・ 生徒同士での学び合いの時間を取り、主体的に学習する姿勢を身に付ける。
- ・ 話すことや書くことの力を伸ばすため、授業における話すことや書くことの活動の内容と量を工夫する。
- ・ 聞くことや読むことの力を伸ばすため、聞き取りや読み取りのポイントなどを意図的に指導する。
- ・ 定期的なワークや自主学習への取組、ノート指導、ワークシート取組時の個別指導を一層充実させる。
- ・ スピーチ、音読テスト、QAテストなどのパフォーマンスをすることで、学んだことを自分の表現として使える英語に発展させる。

### ③ 授業改善案

#### ア 言語活動の取組

- ・ ペアやグループで言語活動を行いながら、さらに多くの生徒が発表する場面を取り入れる工夫をする。学力の個人差に留意し、助け合いによるペアワークが成立するように配慮する。

- ・ 既習事項を使った表現活動やリプロダクションを通して、英語で表現することに慣れさせ、生徒同士でコミュニケーションを楽しむことができるようにする。
- ・ ALT との授業では、ターゲットとなる表現を取り入れて、繰り返し会話するように努める。
- ・ 即興性を意識して、その場で与えられたトピックでの会話、3文以上でさらに内容の広がりのある会話をする機会を多くもつ。
- ・ 聞く力、英語で即答する力を高めるため、リスニングでは2回繰り返しではなく、1回で聞き取る経験を重ねる。

#### イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 何ができれば目標を達成したのかについて、分かりやすく生徒に提示する。
- ・ 指示や説明を簡潔・明確にし、板書や掲示物を工夫する。
- ・ 特別な支援が必要な生徒には授業中に個別に声を掛け、放課後学習教室の利用も促す。

#### ウ 家庭学習の定着

- ・ 家庭学習をしてきたことが次の授業で生かされる学習活動の設定など、授業内容と家庭学習の関連をさせるように努める。
- ・ 教科書本文の音読と暗唱を重視し、暗唱テスト及び筆記による小テストを細かく行う。

#### エ 文法の説明

- ・ 図等を使用して文法の説明を視覚化するとともに、反復練習の際も絵等を用いて、音声によるサブスチチューションドリルと、筆記による作文の両方を十分に行う。

#### オ 大型テレビやデジタル教材など I C T機器を取り入れた授業への取組

- ・ 感心を高め、より理解しやすいように英語の曲や映像を取り入れる。
- ・ 実写版のビデオ教材を使って実際の英語の使用場面や状況を理解するとともに、会話の際の話し方を身に付けさせ、興味・関心を高める。

### (3) 第3学年

#### ① 分析と生徒の状況

##### ア 分析

3年生の学習状況について、定期考査や復習確認テスト、授業アンケート、授業の様子などから、以下の特徴が見られた。

- ・ 4月に実施した全国学力・学習状況調査では、表現の観点（書くこと）では都平均より約1ポイント低く全国平均より約3ポイント高かった、理解の観点（聞くこと）で都の平均正答率より約2ポイント低く、全国平均より約1ポイント高い、理解の観点（読むこと）では都の平均正答率より4、5ポイント低く、全国平均を約1ポイント下回った。知識・理解に関する観点は1ポイント高かった。
- ・ 3年生の7月に実施した復習確認テストでは、都標準平均点より2.5点高かった。
- ・ 語彙に関して、2学期初めの単語テストの平均点は2年次79点に対して、3年次は84点になった。昨年から下位層に対して追試験を繰り返して、学習の意識を高めるようにしてきた成果が出てきた。
- ・ コミュニケーションに対する関心・意欲については、ALTと話す場面や英語での質問に英語で答えようと意欲的に取り組むことができている。
- ・ 定期考査等から、文法の理解不足と英作文の書き方に慣れていないため、書くことの活動では自信をもって取り組めていない生徒が多いことが確認できた。ただ、2年次より書くことの活動に意欲的に取り組もうとする生徒が増えてきている。
- ・ 授業評価アンケートでは、英語に対する興味・関心があると回答した生徒は91%いた。また、授業者の話し方や説明のわかりやすさ、授業のスピード、黒板の使い方、質問への答え方については、それぞれ90%前後の生徒が「良い」「どちらかというが良い」と回答した。

##### イ 学力の状況

3年生の外国語（英語）の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 知識・理解の能力を高め、理解の能力である聞くことや読むことの力、表現の能力である話すことや書くことの力へつなげる必要がある。
- ・ 個人差が大きく、一斉授業の中では文法の説明を理解することが困難な生徒がいる状況であるが、ペアやグループによる助け合い学習により、理解が深まり、成果が出つつある。

#### ② 本校の課題

##### ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 学習した英語表現や文法を用いて、自己表現のために運用する力を高める必要がある。
- ・ 授業で学習した内容を定着させるために、家庭学習に取り組ませる。

##### イ 指導面（教師の課題）

- ・ 授業の構成を練り、目標を明確にして言語の使用場面を意識させる授業を行う。
- ・ ペアやグループなど学習形態を工夫し、反復により学習した文法事項を定着させ、身近なことを表現する活動を大切にする。生徒同士での学び合いの時間を取り、主体的に学習する姿勢を身に付ける。
- ・ 話すことや書くことの力を伸ばすため、授業における話すことや書くことの活動の内容と量を工夫する。
- ・ 聞くことや読むことの力を伸ばすため、聞き取りや読み取りのポイントなどを意図的に指導する。
- ・ 定期的なワークへの取組、ノート指導、ワークシート取組や回収時の個別指導を一層充実させる。
- ・ 聞く力、英語で即答する力を高めるため、リスニングでは2回繰り返すではなく、1回で聞

き取る経験を重ねる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業での活動の目的や目標を明確にした授業を行い、何ができれば目標を達成したのかについて、分かりやすく生徒に提示する。
- ・ 指示や説明を簡潔・明確にし、板書や掲示物を工夫する。
- ・ 特別な支援が必要な生徒には授業中に個別に声掛けをし、放課後学習教室の利用も促す。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 家庭学習をしてきたことが次の授業で生かされる学習活動の設定など授業内容と家庭学習のサイクル化に努める。

エ その他（ＩＣＴ機器の活用等を含む）

- ・ デジタル教科書を使って教科書の重要なポイントの提示やドリル活動を工夫する。
- ・ 実写版のビデオ教材を使って実際の英語の使用場面や状況を理解するとともに、会話の際の間や話し方を身に付けさせ、興味・関心を高める。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ ペアやグループで言語活動の中で既習事項を使った表現活動を行い、英語で表現することに慣れさせ、生徒同士でコミュニケーションを楽しむことができるようにする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業での目標を明確にし、何ができれば目標を達成したのかについて、分かりやすく生徒に提示する。
- ・ 指示や説明を簡潔・明確にし、板書や掲示物を工夫する。
- ・ 特別な支援が必要な生徒には授業中に個別に声を掛け、放課後学習教室の利用も促す。

ウ 家庭学習の定着

- ・ その日の授業内容を復習できるような学習課題を設定することで、授業内容と家庭学習のサイクル化に努める。

エ その他（ＩＣＴ機器の活用等を含む）

- ・ デジタル教科書やパワーポイント等を使って、教科書の重要なポイントの提示やドリル活動を工夫する。
- ・ 実写版のビデオ教材を使って実際の英語の使用場面や状況を理解するとともに、会話の際の話し方を身に付けさせ、興味・関心を高める。